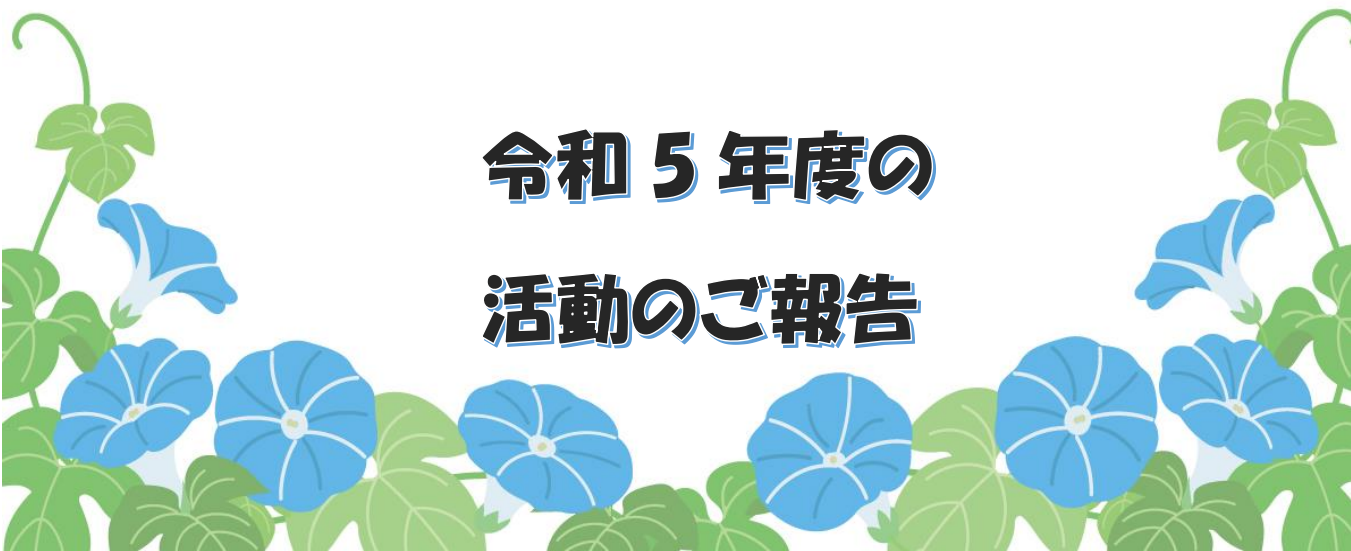




夏のご挨拶をかねて



令和5年度の 活動のご報告



特定非営利活動法人ピーす

堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

電話 072-250-9060 FAX 072-250-9061

メール p-office@p-s-sakai.net

～ ぴーすのミッション ～

信頼に応える、ぴーすらしい「プロフェッショナル」で
ぴーすのテーマである「えんばわ支援」を行い
エンドユーザー：子どもの夢を実現する

～ ぴーすのテーマ ‘えんばわ支援’ ～

子どもの「自ら、成長しよう」とする力を
家族が「たのしく暮らそう」とする力を
周囲の「ともに生きよう」とする力を
めいっぱい活かしてもらう支援



表紙 ～ミッション～

ページ1 目次

ページ2 **子ども・本人が参加するもの ～育てる・高める支援～**

・児童発達支援 ピーすの児童デイびころ

ページ3 ・放課後等デイ ピーすの児童デイぱんだ

ページ4 ・放課後等デイ ピーすの児童デイあぼろ

ページ5 ・地域活動支援センターぱれっと マラソンクラブ、しゃべり場、鉄道クラブ

ページ6 **保護者に届けたもの ～寄り添う・高める支援～**

・コラム「出会い」

ページ7 ・ぱれっとプログラムで、自主的に支え合ったもの

ページ8 ・母達の「学びたい！」に答えて

親子で、利用参加するもの ～育てる・高める支援～

・地域支援特別事業 おもちゃ広場

ページ9 **相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～**

■保護者からの相談

ページ10 ・ピーすの支援プランセンター（障害児相談支援、計画相談支援）

・ピーすの児童デイびころ、ぱんだ、あぼろ（児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援）

ページ11 ・ピーすのあい・すてーしょん「訪問、外来」（堺市障害児等療育支援事業）

・地域活動支援センターぱれっと（堺市地域活動支援センター事業）

・ピーすのあい・すてーしょん「施設支援」（堺市障害児等療育支援事業）

ページ12 ■支援者からの相談

・保育所等訪問支援事業

・あい・すてーしょん「施設支援」

・障害児支援通所事業者育成事業

ページ13 **情報を提供するもの ～伝える・広げる支援～**

・メールニュースふぁにい

・生活支援グッズのお店 ぼっしえ

ページ14 **啓発や連携をするもの ～広める・つなげる支援～**

・講師派遣

・他団体等とのコラボ

・広報活動

ページ15 事業一覧



子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

びーすの児童デイびころ

児童発達支援事業（放課後等デイサービスあり）

びーすの児童デイ事業の中で、びころは、主に就学前のお子さんを対象としています。平日は、在宅の1歳児や保育所等に通う園児で療育が必要な子を対象に活動しました。土曜は、支援学校を利用の子を含め小学2年生までを対象として、趣味・余暇と出会う活動に取り組みました。〈利用契約数 29名（年度末） 利用延べ回数 1,181回〉



びーすの児童デイ
びころ

～スタッフより～

令和5年度は、前年度末にたくさん年長さんが卒業する年であったということもあり、4月は少し寂しいスタートとなりました。午前クラスに通っている子どもたちの中には、入園したばかりの年少さんが多くいて、新しい環境の変化や集団生活の中での戸惑いが少なからずもありながら、びころでの準備期間があったからこそ大きな乱れもなく、スムーズに園生活をスタートできたと思っています。



午後クラスでは、隔週でそれぞれの児童に合わせた個別課題を用意し、設定保育の時間に机に向かって課題に取り組みました。最初に、アセスメントを取るための教材を用意し、現在の力を知った上で、課題を用意するようにしました。年長のお子さんで昆虫が好きな児童に対しては、昆虫の名前を使った平仮名マッチングやなぞり書きプリントを用意し、苦手だった文字理解を興味・関心を活かした課題にすることで、文字の習得へと進めることができました。その他にも、用意する課題の量や順番など、達成感を感じた状態で終われる工夫も行ってきました。子どもたちの中では、次が『先生とお勉強』だとわかると、真っ先に椅子に座って課題が用意されるのを待ち構えている子もいて、楽しみにしていました。



また、午後クラスはそれぞれの児童に合わせた個別スケジュールを提示するようにしました。今までは全体スケジュールを見てもらっていましたが、制服から私服に着替えるタイミングやトイレに行くタイミングなど、活動の提示が個々に対応できていない事もあり、児童の理解の仕方に合わせた予定の示し方に変えるようにしました。そうすることで、活動の流れをパターンの覚えるために予定変更への混乱が見られる児童に対して、あえて順番を変えたりしながら、いつもと違う予定の変更に対しても柔軟に対応する練習ができるようになりました。



びころに到着すると、まず自分のスケジュールを見て確認してもらっています。そこで、いつもの活動順とは違う所があることを説明し、事前に理解してもらっています。



こうした練習をすることで、園生活で起こりえるイレギュラーな行事にも柔軟に対応する力を身に付けることができます。それには、家庭や園の協力が不可欠になりますので、今後は連携に力を入れていきたいと思っています。

子どもたちがのびのびと安心してびころに通えるような環境作りを用意しています。「びころに来ることを楽しみにしている」と保護者の方からお話していただけることがあり、スタッフ一同とても嬉しく思っています。

子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

ひーすの児童デイぱんだ

児童発達支援・放課後等デイサービス事業

ぱんだでは、主に放課後等デイサービスを実施。言葉の会話が可能な子を対象として、平日はSSTを組入れた活動など、土曜は集団で趣味・余暇の力を育む活動を行っています。
<利用契約数 40名(年度末) 利用延べ回数 2,461回>



～スタッフより～

令和5年度のぱんだは、前年度に引き続き小学校1年生から高校3年生まで幅広い学年層で年齢差のあるメンバー編成で活動いたしました。メンバーさんの多くが前年より継続してご利用されるかたが多かったですが、一年間の活動を通して「こんなに成長されるのか!!!」と日々の活動での変化する姿に大きな可能性を感じることできた日々でした。個々が自信をつけていくことによって、より高い自己実現へ向けて頑張る姿がとても印象的な年度となりました。

◆平日の活動◆

【月曜日】は「もっと〇〇ができるようになりたい」と、高い理想をもって活動される『**目標意識型**』のような集団となりました。特にみんなでトークでは積極的に計画・準備・進行・譲り合いの大切さを意識され、たくさん学んで実行することができました。

【火曜日】は自分の好きなことにとことん取り組みながら、互いの気持ち・行動・存在を尊重しあいながらも、自然に感謝したり注意しあう、言わば気を許しあうことのできる仲間同士としての『**家族型**』の集団となりました。

【水曜日】は高学年のかたが多くなったことで、先輩はよりよい行動の見本を示して後輩はそれを見てマネをしかかっこの先輩を目指す、まるで『**部活動型**』のようなお互いを意識しあって成長していく姿が見られました。

【木曜日】は下校時間の関係により利用される時間が特に短く、どうやったら時間内に自分たちのやりたいことややるべきことを達成できるか、テキパキと考えて行動する『**短期集中型**』集団としての力が醸成されたと思います。

【金曜日】は趣味嗜好の似ているかた同士が多く集まり、いわゆる『**探求型**』の集団として活動されました。そこに何かイベントをしようとなると、趣味嗜好を越えて協力・協調していこうという姿勢が見られました。

■土曜日の活動■

【クッキング・おやつクッキング】は、安全かつ高い技術力を身につけられて、『**自分たちで主体的に活動する**』様子が多く見られるようになりました。家庭でも取り組もうとすることが多くなったり、学校の調理実習で一目置かれる存在になった等の声も聞かせていただきました。

【スポーツ】は、毎回様々な場所へ外出する取り組みでしたが、身体の成長とともに、積極的に『**身体を動かすことの楽しさや喜び、季節の移り変わり**』を感じられる姿が多く見られました。

【アート】は、毎回スタッフが作品のテーマを提示していますが開始の時間を待たずに想像力と創作意欲の高まりで『**時間いっぱい集中して取り組み**』、毎回素晴らしい作品を完成されていました。

※この一年間で、いずれの活動においても『**廃棄物の少なさ**』が目立ちました。

リデュース・リユース・リサイクルを実践され、まさにSDGsの最先端を再現されていると感じました!!



子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

びーすの児童デイあぼろ

児童発達支援・放課後等デイサービス事業



あぼろでは、個別の介護・支援が必要な重度障害児を対象とし、

平日は自立に向けた生活訓練を、土曜は個別で行う趣味・余暇の力を育む

プログラム活動を行いました。<利用契約数 21 名（年度末） 利用延べ回数 1,768 回>

びーすの児童デイ
あぼろ

～スタッフより～

R5年度は、新1年生が2名入り、どの曜日も1年生～高校生までまんべんなくいろんな学年の子がいるというメンバー構成でスタートしました。日々のメンバー構成に大きな変化はなかったものの、部屋の使い方を1階は低学年が使用、2階は高学年～中高生がメインで使用と分けたことで、『自分のスペース』の変更があった子がいました。



児童の特性を考慮してスタッフが場所をチョイス。その場所で大丈夫かは今後本児の活動の様子を見ながら決めいくという形で、新学期初日に過ごす場所の写真を児童に見せて伝える支援をしました。もともとこだわりのあるお子さんだったので「納得できるかな？」とスタッフも不安でした。最初はもちろん拒否。「自分の場所はここだ！」と部屋に入るが、低学年用に机も小さいものを用意し配置も変えていたので「なんだか違う・・・」と気づいたようで見た後すぐに気持ちを切り替えてスタッフと移動することができました。初日は活動で部屋の前を通るごとに確認をしていますが、次の日からは気にすることなく新しい自分のスペースに向かう姿を見て「自分でわかる」が本児にとってどれだけの安心感に繋がっているのかを実感したできごとだったなと印象深いできごとでした。

活動内容は去年と大きく変えず、低学年は『遊びを豊かにする』活動を中心に、好きな活動の間に机に向かう時間（課題別作業や制作活動）を取り入れたり、身辺自立・簡単なお手伝いなど少し頑張る活動もスタッフの支えのもと取り組みました。課題別作業やお手伝いでは、「1人ではまだ難しいけど、少しの補助があればできる」作業を取り入れスタッフと毎回同じことにチャレンジ。1年後の子どもたちの成長はいつ見ても感動でいっぱいの気持ちになります。



高学年～中高生も主な活動では、活動内容や取り組む時間はあらかじめ設定していますが、もちろん設定した時間や活動は「本人の要望・主張」で変更可能です。

自分の気持ちを主張できる力がついてきた子が増えたので「なにをするか、どこに行くか」を2択の中から『自分で決める』機会を増やして活動に参加しました。

今後は代休など少人数グループでの活動では『外出先』や『クッキングのメニュー』子どもたちが決める場面も作れたらいいなと思っています。

子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

地域活動支援センターぱれっと

堺市地域活動支援センター事業 生活支援型 B タイプ

地域活動支援センターは地域で孤立しがちな『障がい児とその家族』のための居場所支援と相談対応、そして週2回程度のプログラムで、当事者の力を高める支援を行う事業です。

ぱれっとは火曜～土曜に開所し、日常的な居場所支援を行うとともに、平日には【障がい児母親】が参加するプログラムを、土曜日に「日頃学校や事業所等に通う青年など」が参加できるプログラムを実施しました。令和5年度の来所者数は、総延べ人数 1,063 名（内、登録利用者 104 名、未登録利用者 117 名）プログラムは 88 回実施し 延べ人数 388 名となりました。



マラソンクラブ

第1土曜

～スタッフより～

親子で参加。近くの梅町公園でランニングを楽しんでいます。ランニングを通して本人、ご家族同士が交流することも目的なので、マラソン後の交流室でのおやつタイムも楽しみの一つ。おしゃべりはとても楽しい時間です。昨年度は一般のマラソンのイベントに誘い合い、出場されました。本年度もチャレンジされるようです。 <全 11 回 延べ 98 名参加>



しゃべり場

第2・第4土曜

～スタッフより～

「びーすの様々な事業で児童期に支援を受けていた子たちが、成人した後に自らの意思でしゃべり場に来てくれたら」との思いも込めて第4土曜日開催しているしゃべり場。年齢層は中学生から60代までと幅広いメンバーが集まります。集まったメンバーで「のんびりと集団活動」。

『ミーティング』で近況報告以外は自由スタイルで、トランプや塗り絵など皆さんがしたいことをして過ごされています。終了前にそれぞれが本日の感想を書いて『しゃべり場新聞』を作っていて、只今4冊目になります。昔の新聞を見返してメンバーたちでの思い出話も楽しいです。新規利用や見学の方も多く、これからもどんどん賑やかになりそうです。 <全 22 回開催 延べ 141 名参加>



鉄道クラブ

第3土曜

～スタッフより～

午前・午後の二部制「各回、家族1組程度で予約制」で予約枠が直ぐに埋まってしまう大人気の鉄道クラブ。交流室にプラレールをいっぱい組み立てて大好きな車両を思う存分走らせて楽しく遊んでいます。ここでは安心して遊ばせることができると保護者さんもほっと一息。ゆっくりと子どもの遊ぶ様子を見て一緒に楽しませていました。令和5年度は鉄道クラブスペシャルも実施しました。沢山のお子さまに喜んでいただき、お久しぶりの利用者も来てくださり大盛況でした。 <全 12 回 延べ 41 名参加>



保護者に届けたもの ～寄り添う・高める支援～

びーすの前身であるおもちゃ図書館ぽっぽ（ボランティア団体）の活動から26年ほどになります。

自身の子育て、出会った保護者・支援者の方々との出会い。様々な方との関わりがあり、現在のびーすの活動へと続いています。そんな『出会い』について副理事長 松本のコラムを掲載します。

NPO 法人びーす 副理事長の松本です。

いつも、びーすへのご理解、ご支援、ご指導をいただき、ありがとうございます。

人にはいろんな『出会い』があると思います。

私の息子は軽度の発達障がいがあります。結婚4年目にして授かった息子でした。1歳半を超えたあたりから言葉が出なくなった・パニックをよく起こす・偏食がキツイ…など、いったいこの子に何が起きているの？と不安いっぱいの日々でした。

区の幼児教室を経て、当時の障害児通園施設えのきはむに入園し、いろんなお子さんとそのお母さんたち、先生方にも出会いました。そのひとりが小田理事長です。ボランティアグループのおもちゃ図書館ぽっぽに誘ってもらい、そのうちスタッフをさせていただくようになりました。

当時は子育てのことだけでいっぱいだけで、自分の息子のことでさえ試行錯誤しながらの生活でしたが、小田理事長はじめ、いろんな母たちとの出会いの中で、少しずつ息子の障がい受容ができるようになり、笑って暮らせる毎日に戻ってきました。

もしも、この出会いがなかったら……。お互いに悩みながら、しんどいことも楽しいことも共有できる「仲間」がいなかったら……。きっと、今の私、息子、家族はいなかったと思います。それくらい、大きな心の支えをいただきました。

おもちゃ図書館ぽっぽ～びーすで出会った悩みを持つお母さんたちに、できることは少ないけれど、共感することを大切に、自身の体験をお話することができるようになり、また自分自身の子育てを振り返る機会もたくさん与えてもらいました。

「話を聞いてもらって、すっきりしました」「少し頑張ってみようかな」と言ってもらえた時、私もおなじように支えてもらった感謝がよみがえります。

当時に比べると、今では児童の福祉サービスも充実し、数多くの支援者の方もおられます。発達障がいに対する理解も少しずつ進んでいるようです。でも、母の悩み、不安は当時と何も変わっていません。

びーすは障がい児の母親同士の「支え合い」を大切に活動しています。また、障がいのある子どもたち、その家族に「元気になってほしい」と願う職員がいます。

悩みは一人では解決できないことが多くあります。「一人で頑張らなくても、周りに頼ったらいよいよ」と言ってくれた先輩母たち、同じように悩みながら支え合った母友たち。今も大切な支えになってくれています。

多くの悩めるお母さんたちに素敵な出会いがあることをいつも願っています。その一役として、びーすとの出会いがあってよかったと思っていただけるように、これからもがんばっていきたいと思います。

保護者に届けたもの ～寄り添う・高める支援～

びーすは法人設立以前より、障がい児の母親同士の『支え合い』を大切に活動してきました。

同じ立場だからこそ、わかりあえる。我が子の障がいに気づき、不安に震える後輩を見れば「私もそうだった」と思い出し、力になりたいと思う。子どもの育てにくさに困っている母と会えば、「自分も同じ」と気づき、その解決を共に学ぼうとする。そんな支え合いを続けて26年たちますが、今でも活動を担っているのは母親ボランティアです。

令和5年度のボランティア登録数は48名。毎年「びーすを卒業する親子」と「びーすの仲間になる親子」がいます。入れ替わりはあるものの、ボランティアの皆さんに支えられています。また、お子さんの年齢は幼児～20歳代までと幅が広がっています。

■■ ぱれっとプログラムで、自主的に支え合ったもの ■■

「相談するほどじゃないけど、誰かに聞いてほしい」「先輩の話を聞いてみたい」という声に応える『母たちのおしゃべり会』。地域活動支援センターぱれっとのプログラムとして実施しています。令和5年度も6種類を用意。それぞれメンバーの自主性を大切に、何をするかは数名のリーダー役と職員が定例会議を行って決めました。参加者はいつでも・自分に合うものを選んで参加。複数に参加する人も多くいました。令和5年度の参加状況は以下の通りです。

プログラム名	内容	実施回数	延べ人数
ほかほか工房	工作好きな母たちがいろんな作品を作りながら、おしゃべり	12回	33名
わくわくワーク	おもちゃ消毒やパンフレット整備をしながら、おしゃべり	12回	19名
ふわふわモック	ぼっしえの支援グッズの企画検討をしながら、おしゃべり	12回	49名
不登校かふえ ゆるり	不登校に悩む母たちがストレス発散しながら、おしゃべり	6回	9名
情報かふえ ほっと	障がい児に役立つ情報を、オンライン&対面でおしゃべり	3回	13名
リーダー会議など	毎月の定例会議、年3回の全体会議、セミナー打合せ等	18回	32名

令和5年度は感染症への対策は行いつつ、できる限り通常のプログラム活動ができるよう心がけました。コロナ禍での規制も徐々に緩和されていく状況の中、やはり対面で「つながる」活動はどのプログラムも活気あるものになりました。また『定期開催』だけでなく、「もっと別の日でも活動したい」というリクエストがあり、令和5年度も引き続き、追加の『特別活動』を実施しました。上記の回数は、そのすべてを合わせたものです。



保護者に届けたもの ～寄り添う・高める支援～

■■ 母たちの「学びたい！」にこたえて ■■ ぱれっと特別セミナー・あい・ふぁいる活用セミナー

ぴーすが得意な「少し先輩の母」が体験談を元に講師をするセミナーや「専門家」を招いてのセミナーを実施しました。令和5年度はすべて対面で実施しました。以下、令和5年度の内容です。

月 日	タイトル、講師等	参加数
8月	重度自閉症者（児）の未来の暮らしⅢ～デジタルの進捗から考える～ 講師：ICT アクセシビリティアドバイザー（AAICT）中園正吾さん	6名
9月	「PT セミナー：座ること～椅子とクッション～」 講師：ボランティア（理学療法士）	5名
10月	支援グッズについて 講師：大栗紙工株式会社	1名
11月	先輩ママにきく おしゃべり会～支援学級/学校ってどんなところ？～小学校編 ゲスト：地域の小学校や支援学校小学部に子どもが通う先輩ママ	4名
11月	先輩ママにきく おしゃべり会～学校生活/受験対策について～中学校編 ゲスト：地域の中学校や支援学校中学部に子どもが通う先輩ママ	5名
12月	先輩ママにきく おしゃべり会～学校生活/進路について～高校編 ゲスト：公立高校、高等支援学校、高等専修学校に通う先輩ママ	4名
12月	あい・ふぁいる活用セミナー『あい・ふぁいるで「つなげよう！」「つながろう!!」』 講師：ぴあリーダー・ぴーず職員	2名
1月	あい・ふぁいる活用セミナー『あい・ふぁいるで「つなげよう！」「つながろう!!」』 講師：ぴあリーダー・ぴーず職員	1名
2月	あい・ふぁいる活用セミナー『あい・ふぁいるで「つなげよう！」「つながろう!!」』 講師：ぴあリーダー・ぴーず職員	4名

親子で、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

おもちゃ広場 堺市（委託）地域支援特別事業

「親子の居場所、保護者の学習会、あい・ふぁいる活用セミナー等を、年間20回開催する」という事業。

（あい・ふぁいるセミナーは、上の表で報告）

令和5年度は受託9年目となり『おもちゃ広場』を11月から毎週水曜日に『ぴころ』にて実施しました。

おもちゃ広場の対象児は1～2歳。健診などで発達のお悩みを気づいた親子が利用します。

この時期の親子はとてもナイーブで丁寧な対応が必要。そこでPRは保健センターのみにしぼり、担当保健師と

しっかり連携しながら支援をしています。そのほかにも直接お母さんから相談のあった

未就園の親子に活動を紹介し参加してもらった方も保健師との連携を行いました。

令和5年度も、ぴーすならではの「親子でホッとできる場所」を提供しつつ、相談員や先輩お母さんに相談、参加者同士の交流を支援しました。はじめは緊張していたお母さんも続けて参加される中で、お互いに子育ての悩みや福祉サービス、進路情報などの情報交換をする様子が見られました。



全 17 回実施 参加親子数 延べ 40 組 73 名

相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～

■■ 保護者からの相談 ■■

障がい児の相談支援は難しい…とよく言われます。確かにいろいろな面で成人とは違う。母子保健・保育・教育の情報が不可欠ですし、その内容はどんどん進化しています。子どもの状態も「愛着形成が重要な幼児」「大きな成長がある小学生」「思春期の問題が出る中学生」「進路が重要となる高校生」と変わりますので、「支援の内容」も変化させなければなりません。さらに保護者を支える子育て支援も大事。この情報も年々変化しています。つまり、児童の相談支援は成人とは違う専門性を持ち、常に情報更新することが重要です。

平成 24 年度から障害児相談支援が開始され、「障がい児の相談」というと、『障害児相談支援』のイメージが強いようですが、実際はサービスでは解決しない悩みが多いです。例えば健診で発達の遅れが発見された場合、最も重要なのは母の心のケアです。小学校の通常学級でがんばる発達障がい児は、サービスが不要でも母には「育てにくさや学校の悩み」があります。また、きょうだいのことや両親の不仲、地域とのつきあいなど、実は悩みがあらわれているのです。

ぴーすには、各事業所や法人のホームページ等のさまざまな窓口で、年間を通じて、上にあげたようないろいろな相談が入ってきます。それを、ぴーすの方針「断らない支援」を実施するため、工夫しながら対応しています。

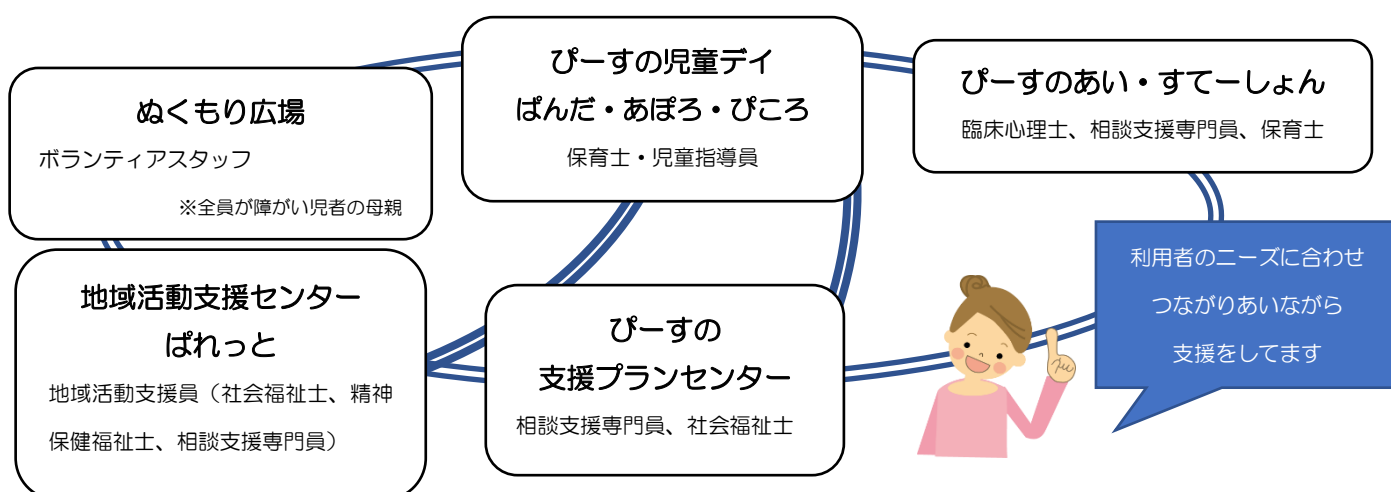
「保護者からの相談」に対し、ぴーすの「相談対応の形態」は、6種類あります。

1. ぴーすでの『障害児相談支援』『計画相談支援』
2. デイ事業所での『事業所内相談支援』
3. 保育所等訪問支援での『家庭連携』
4. あいすて『来所での相談』『訪問しての相談』
5. あいすて『施設支援』の中での「保護者面談」「家庭訪問」
6. ぱれっとでの『来所相談』

1～3は利用契約者です。
4～6は契約不要で相談に応じています。
ただし6は、継続的にご利用の場合、登録していただいています。

ぴーすが大切にしていること

どの事業・窓口から入ってきても、法人内につながり・対応する『連携の仕組み』



ぴーす内では解決しないことは、積極的に関係機関や他事業所との連携を取り入れています。

令和 5 年度の相談対応は、実人数が 657 名（うち新規 237 名）。相談件数は 5,096 件となりました。

相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～

■■ 保護者からの相談 ■■

前述の「保護者からの相談」に対応したものについて、形態別に1つ1つ、担当スタッフより報告をします。



■福祉サービス等のプランなど行う

ぴーすの支援プランセンター（ぴーセン）

障害児相談支援、特定計画相談支援

令和4年度から、訪問系の職員で合同の相談対応チームを作り、ケース検討などを通して、アセスメント力が向上するよう研鑽に努めてきました。令和5年度はこのチームとしては2年目となり、毎週の合同ケース検討会議も習慣づき、法人内の他のチームとの連携も進んだと感じています。また、法人の令和5年度の目標も「アセスメント力のアップ」ということでそれぞれが、スキルアップに努めました。

また、昨年度は、ぴーすの支援プランセンターは、機能強化型Ⅱとなり、より専門性を求められる環境となりましたが、日々の相談業務をこなしつつ、自立支援協議会北区連絡会への出席、みのりの会での幹事役もこなし、地域に貢献しました。プランセンターの収入増にもつながりました。

ご承知の方も多いと思いますが、ぴーすの相談支援は、「児童の専門性」を高めつづけることを重視し、一定の年齢がきたら別事業所に引継ぐなどして『卒業』をしていただいています。これは利用者の理解あってのこと。承諾していただいた利用者の皆様には、心から感謝します。令和5年度も複数のお子さんが卒業されました。卒業した子・保護者には、地域活動支援センターぱれっとを紹介し、本人は「成人後の地域活動の場として」保護者には「成人した後の相談の場として」つながり続けられるよう工夫しています。卒業後も、それぞれに合った形で活用していただいています。

利用契約者数 障害児相談、79名（年度末） 相談者実数 80名 相談対応数 1,725件

■通所サービスを利用中の「保護者の相談」

ぴーすの児童デイ ぴころ・ぱんだ・あぼろ

児童発達支援・放課後等デイサービス

デイの3事業所、それぞれの利用児童の年齢や特性が幅広いため、保護者からの相談も多種多様になってきています。例えば、歯医者や耳鼻科、良い所は？特性ゆえの騒音でご近所づきあいが心配、ゲームに夢中で生活リズムが乱れる、中学・高校への進学が心配などです。対応しながら、いつも悩みの向こうに「相談できる人」を求めておられるように感じています。現在は「検索すれば答が出てくる」世の中だからこそ、直接顔を合わせて話す機会が大切。ぴーすの強みとして、先輩母スタッフの経験を伝えたり、保護者同士が話せるセミナーへ案内して、悩みをひとりで抱え込まない環境作りを支援しています。



相談者実数 113名 相談対応数 269件

ぴーすの児童デイ ぴころ

保育所等訪問支援

保護者の依頼で、学校や保育所などを訪問し、現場に入り込んで行うアウトリーチ型の発達支援事業です。子どもへの直接支援や訪問先への助言などの間接支援を行い、保護者への報告を行っています。利用保護者からは「子どもの様子が分かる、成長を実感できた、学校や保育所等での取り組みが理解できた」等の感想を頂いています。また、保育所等訪問支援を活用することで、学校現場と福祉職が連携しやすくなりました。小学生から利用していた児童が中学生になり、中学校への訪問も増えました。

相談者実数 35名 相談対応数 749件（学校園含む）

相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～

■受給者証を取得していない（サービスを利用していない）保護者の相談

ぴーすのあい・すてーしょん（訪問・外来） 堺市障害児等療育支援事業

ぴーすに入る相談のうち、乳幼児は、保健センターの健診がきっかけでぴーすにつながる場合が多いです。

令和5年度も健診で発達のおまじゆきに気づき、ぴーすの遊び場を利用するため来所。その後、継続的に相談されるケースが多くありました。また、令和4年度に遊び場利用していたお子さんが、その後に療育の必要を感じ、再びぴーすへ相談するというケースも多々ありました。年齢とともに変わる保護者の悩みに寄り添いながら、その時に必要な情報を伝え、保護者とともに考えています。

また、年中・年長児や学齢期のお子さんの場合は、学校や園などの集団生活に大変さを感じて「どうしたらいいですか？」という相談が入ります。発達の遅れに気づいていても、福祉サービス利用に至るまでの保護者の葛藤はとても大きいものです。令和5年度もその葛藤に悩み・揺れる保護者がたくさんおられました。サービス利用への道案内はもちろん重要ですが、サービスでは解決しない悩みもあります。保護者へ寄り添う姿勢が必要と感じました。



相談者実数 62 名 相談対応数 213 件

■受給者証を取得済み（サービス利用中）の保護者の相談

地域活動支援センターぱれっと 堺市地域活動支援センター生活支援型 B タイプ

ぱれっとでは、すでにサービスを利用している保護者の相談に対応させていただいています。ぱれっと交流室には多数の資料（事業所パンフレット含む）を区やサービスごとに保管しています。「それを見たい！」と来所される方や、「高校生になったばかりだけど卒業後にどんな福祉サービスが使える？」「運動ができるデイって、どんなことするの？」などの相談がしばしばあるので一人ひとりの状態の把握をさせてもらいながら、いっしょにお子さんにあった事業所や暮らしの工夫を考えています。

またぱれっとではセミナーやプログラムを多数開催していますので、その流れから「進路について」「日常生活での過ごし方」「子どもたちにわかりやすく片付け方やルールを説明する方法」などの相談にも対応しています。逆に、ぴーす内の別の事業所から「ぱれっとでの相談を」とつながることも多く、委託相談ならではの様々な、多岐にわたる内容に対応しています。もちろん、ぱれっとで対応しきれない内容は、ぴーす内外問わず連携、情報共有を行いながら対応しています。

相談者実数 94 名（成人含む） 相談対応数 889 件

■学校園や事業所からの依頼で、保護者の相談に応じる

ぴーすのあい・すてーしょん（施設支援） 堺市障害児等療育支援事業



年々依頼数が増えていましたが、R5 年度は新しく通級が設置された小中学校が多かったことも影響して、お付き合いする学校の幅も広がった一年でした。年度の後半は長く施設支援を担当していた職員が休みに入り、これまで関わりの少なかった学校と新人の心理士とで新しく関係を作っていく期間でもありました。心理士が減ってから変わらず数多くあった依頼に対応することに苦心しながらも、ケースによっては検査の実施に慎重になったり検査後も継続的な教育相談につなげたりするなど、「検査前の聞き取りやニーズ整理を丁寧に行う」というこれまでの方針を引き継ぎ丁寧なケース対応を心がけてきました。これまでもお付き合いのあった学校や新しく連携することになった SSW、ぴーすの中のお他職種の方にも支えられながら、アセスメント力を高め、より幅広い依頼に応えていく基盤を作っていくことができたと感じています。

相談者実数 273 名（施設含む） 相談対応数 1,204 件（施設含む）

相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～

■ 支援者からの相談 ■

続いては、支援者からの相談について、担当スタッフより報告します。

ここ数年、保育所・幼稚園・子ども園や学校、デイサービス事業所など「直接、子どもたちへ指導・支援している人」からの相談が増えています。それを、びーすらしく支援するため、3つの形で対応しています。

1 つめは、心理担当職員による児童のアセスメント（検査等で抱えている課題を明確にする）。

2 つめは、教育と福祉が機能的に連携するための支援（相談支援の手法で）。

3 つめは、保護者とのコミュニケーションを円滑にするための支援（ばれっとのびあ相談を取り入れることも）。

事業形態は、『施設支援（あいすての1つ）』、『保育所等訪問支援』、『障害児通所事業者育成事業』です。

■ 学校園を含む「施設」からの依頼で・**びーすのあい・すてーしょん**による『施設支援』

学校や保育所・デイ事業所など「施設」からの依頼を受け、相談や助言を行う事業。令和5年度は、心理担当職員が1名産休・育休となり、2名体制となりました。また、令和4年度より取り組んできた新しい形「依頼を受ける前の聞き取りやニーズ整理を丁寧に行う」「一つひとつを丁寧にアセスメントしてチームで検討する」という対応はそのまま、びーすらしいお付き合いを続けてきました。1名減になっても、これまで以上に様々な相談があり、検査前の聞き取りを丁寧に行い、さらに検査・説明の後に「よりその子にとって何が必要か」をアセスメントし、必要に応じて病院や福祉の関係機関に繋いで連携しました。これまで以上に連携先も広がりました。

令和5年度に引きつづき、びーすだけが関わるのではなく、より多くの関係機関と連携し、それぞれの得意なことを意識しながら役割に応じて、『一つのケースに複数の関係機関が関わる』といった形をこれからも続けていきたいと思っています。



■ 学校園の訪問など・**びーすの保育所等訪問支援事業** びーすの児童デイびころ/多機能事業として保護者の依頼で、学校や保育所などを訪問し、現場に入り込んで行うアウトリーチ型の発達支援事業です。

子どもへの直接支援や訪問先への助言などの間接支援を行い、保護者への報告を行っています。利用保護者からは「学校や園での子どもの様子が分かる、成長を実感できた、学校や保育所等での取り組みが理解できた」等の感想を頂いています。また、昨今重要といわれる学校現場と福祉職の連携が、保育所等訪問支援を活用することで、相談支援・デイサービスと学校の先生方が連携できることも増えました。

■ デイ事業所を訪問して・**堺市障害児通所事業者育成事業**

デイサービス事業所を訪問し、事業所が抱える悩みや困り事に対して助言を行う事業です。

令和5年度は受託6年目でした。実施している4法人が2カ月に一度堺市と『連絡会』を行い、共通する課題などを見つけ、堺市全体の支援力アップにつながるよう取り組んでいます。研修を年3回実施しますが、令和4年度と同じくオンラインでの講義と3年ぶりに対面での交流会を行いました。オンライン研修は多くの職員が受講できると好評でした。

毎年、利用希望の事業所を募りますが、令和5年度は年間の訪問事業所枠を超えるほどの申し込みがありました。それぞれの事業所が抱える悩みや困りごとは様々ですが、共通する課題も多く、堺市全体の支援力アップにつながるよう取り組んでいます。

情報を提供するもの ～伝える・広げる支援～

びーすでは、障がい児子育てに必要な情報を、さまざまな方法（ツール）を使って提供する活動を行っています。担い手も、ぬくもり活動のメンバーです。令和5年度は、以下のような活動をしました。

メールニュースふぁにい

設立当初から行っている情報配信活動。購読者のスマホ等に火曜～土曜の朝、ニュースを配信しています。情報収集や取材、原稿作成、配信登録といった活動はすべてボランティアライターが行っています。内容は、障がい児の子育てに役立つあれこれ・いろいろ。令和5年度は、購読者127名、配信数331本でした。購読者の感想を一部紹介します。

お出かけ、イベント情報など出掛けるときの参考にしています。私は書いてらっしゃる方の日常のひとこまを読むのが大好きです。

ふぁにいを見て天王寺動物園に行ってきました。こういう情報をいただくと出掛けてみようかなあという気持ちになるのでありがたいです。

身近な情報もありがたいのですが、情報の前のライターさんのお子さんのお話が共感をもてたり、じ〜んときたり楽しみに読ませていただいています

生活支援グッズのお店 ぽっしえ

障がいのあるなしに関わらず、暮らしの中の困り感をサポートする『支援グッズ』の展示や販売をしています。運営のほとんどをボランティアのお母さんたちが行っており、自分たちの目線で「これいい!」「これ紹介したい!」というモノを用意し、工夫しながらディスプレイをしています。

Facebookを見て遠方から来店される方、口コミで知ってイヤマフの試着、介助箸のお試し、購入で来店される方も多くありました。

令和5年には素敵な出会いも。たまたま大阪の福祉展示会に他県から来られた事業所の方がぽっしえのことを知り、立ち寄ってくださったのですが、地元に戻られてから支援グッズを販売・展示するお店を作る計画を立てられたそうです。日本全国いろんな場所に気軽に立ち寄れる支援グッズのお店が広がるといいな♪



『PASSER(パッセ)』『じゅさんあっと堺』とコラボで行っている「授産品の販売コーナー」は、堺ならではの「はにわグッズ」、新学期にピッタリの「布製品」、プレゼントに喜ばれる「アクセサリー」、「さをり織製品」等多数取り揃えております。特に人気なのがケチャップ、ジャム。Facebookで入荷のお知らせを公開すると直ぐに買いに来られる人がいるほどの反響があります。障がいのある方が丁寧に作られている商品、お近くに来られた際は是非お立寄り下さい。

啓発や連携をするもの ～広める・つながる支援～

びーすには、福祉事業の範疇を超えた、さまざまな依頼や問合せが入ってきます。

それを、NPO 法人の市民活動としてお応えすることで、びーすの方針「断らない支援」になるよう工夫しています。

ここでは、個別ケースの相談等ではない、啓発や連携に関することの報告をします。

■ ■ 外部からの依頼を受けて、講師派遣をしたもの ■ ■

びーすは「啓発活動の一環」として、障がい児の母親や専門知識をもつ職員を『セミナーや勉強会・講演会』などに講師派遣を行っています。令和5年度に派遣した内容は、以下の通りです。

依頼者	タイトル	講師として派遣した者
堺市（あい・さかい・サポーター養成研修）	応用講座「あい・ふあいる」活用実際	びーすリーダー・びーす職員
白鷺幼稚園	堺市3歳児部会	びーす職員・ボランティア
美原保健センター	こもれびひろば	びーす職員・ボランティア
堺市難病患者支援センター	学習交流会「先輩ママに聞く 病気のある子どもの就園・就学について～みんなでおしゃべりしましょう～」	びーす職員・ボランティア
堺市	あい・ふあいる活用セミナー「あい・ふあいる」活用セミナー～つながろう、つなげよう～	びーすリーダー・びーす職員

■ ■ 他機関・団体との協働、協力をしたもの ■ ■

毎年、他の団体や関係機関からの依頼を受け、保護者へのアンケートやイベントPR、商品のモニターなど、びーすからできること・・・として、様々なコラボや協力をしています。

令和5年度は、公立大学ボランティアセンター・市民活動センターとSNSアプリ「PIAZZA（ピアッツァ）」の情報交換、関西国際大学教育学部教育福祉学科からの「成人した重度の障がいをもつ子どもと暮らす母親のケア負担と就業に関する調査」のアンケートへの協力、一般社団法人キッズブークプロジェクトからの「私らしい仕事発見ツアー」のPR、(株)kaienとの情報交換、一般社団法人RCFからの重層的支援についてのアンケートの協力など行いました。また、ぽっしえでは令和5年度もパッセとのコラボで授産品販売を引き続き行いました。

■ ■ びーすの広報活動 ■ ■

当法人の活動ターゲット「障がい児の母親」に当法人の活動内容や魅力が届くよう、広報活動を行っています。

タイムリーに配信するためのツールは、ブログとFacebook3つがあります。

ブログは『びーすのブログ』。ぱれっとのプログラムを中心に活動紹介

しています。Facebookは、①NPO法人びーす(ブログと同じ内容)、

②びーすの児童デイ(3つのデイ事業所の活動紹介)、③生活支援グッズのお店

ぽっしえです。令和5年度は、ブログ・FBとも毎週公開し、いろんな活動をお伝え

することができました。特に『ぽっしえのFacebook』は、ボランティアが

原稿を作成。母ならではの体験談やおすすめの支援グッズなどの紹介をしました。

母たちの体験談「あるある話」（令和5年度は「お手伝い編」「病院編」「帰省編」など）

読み応えたっぷりの内容です。ぜひ一度、ご覧くださいね。



NPO 法人ぴーす 事業所(チーム)一覧

地域活動支援センターぱれっと	堺市委託：地域活動支援センター事業生活支援型 B タイプ
ぴーすの支援プランセンター	堺市指定：障害児相談支援（児童福祉法） 特定計画相談支援（総合支援法）
ぴーすの児童デイぱんだ	堺市指定：放課後等デイサービス・児童発達支援（児童福祉法）
ぴーすの児童デイあぼろ	堺市指定：放課後等デイサービス・児童発達支援（児童福祉法）
ぴーすの児童デイぴころ	堺市指定：児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援（児童福祉法）
ぴーすのあい・すてーしょん	堺市委託：障害児等療育支援事業、地域支援特別事業、障害児通所支援者育成事業
ぴーすのぬくもり広場	市民活動：メールニュースふぁにい、生活支援グッズのお店ぽっしゅ

令和 5 年度の利用者数など

ぬくもり広場	ボランティア 48 名（年度末）	活動回数 66 回
メールニュースふぁにい	購読者数 127 名	配信数 331 本
市民活動	コラボ回数 6 回	
ぱれっと（地活）	利用延人数 1,063 名	プログラム数 85 回
ぴーセン（相談支援）	契約者数 79 名（年度末）	計画作成数 84 回 、モニタリング数 314 回
ぴころ(保育所等訪問支援)	契約者数 32 名（年度末）	サービス提供数 749 回
あいすて（療育支援事業）	訪問 3 回 外来 84 回 施設支援 35 施設（実数 335 名、延べ数 1,752 回 、研修 2 回 ）	
（地域支援）	開催数 20 回（おもちゃ広場 17 回、延べ 40 組 ）（あいふぁいいるセミナー3 回、延べ 7 名 ）	
（育成事業）	施設数 14 事業所 訪問数 47 回 研修 3 回	
ぱんだ（放課後等デイ）	契約者数 40 名（年度末）	サービス提供数 2,461 回
あぼろ（放課後等デイ）	契約者数 21 名（年度末）	サービス提供数 1,768 回
ぴころ（児童発達支援）	契約者数 29 名（年度末）	サービス提供数 1,181 回

太字（支援実施数）の合計 **9,961 回**

ぴーす全体の「相談対応」について

相談対応の実人数	657 名（うち、新規 237 名）	相談対応人数	611 名
保育所等訪問支援	35 名	あいすて施設支援	273 名
ぱれっと相談対応	94 名	あいすて訪問・外来	62 名
		ぴーセン相談支援	80 名
		デイ3つの事業所	113 名
			（113 名は、重複）
訪問等を行った施設数（学校園、事業所など）	35 カ所	相談対応件数	5,096 件
保育所等訪問支援	749 件	あいすて施設支援	1,204 件
ぱれっと相談対応	889 件	あいすて訪問・外来	213 件
		ぴーセン相談支援	1,725 件
		デイ3つの事業所	269 件
通所事業所育成事業	47 件		

特定非営利活動(NPO)法人 ぴーす

〒591-8032 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

代表電話 072-250-9060

ぴーすホームページ➡

